

病院の収益改善に貢献する | vol4.5 |

病院経営 マスター Master

特集 | DPCII群病院への取り組み

済生会宇都宮病院 / 前橋赤十字病院

国立病院機構高崎総合医療センター / 聖路加国際病院

NTT 東日本関東病院 / 横浜市立市民病院

神奈川県厚生連相模原協同病院

日本赤十字社長野県支部長野赤十字病院 / 神鋼記念病院

神戸赤十字病院 / 日本赤十字社和歌山医療センター

鳥取県立中央病院 / 広島市立安佐市民病院

国立病院機構岩国医療センター / 徳島県立中央病院

国立病院機構熊本医療センター

特別寄稿：DPCII群病院の維持
岩手県立中央病院

病院の収益改善に貢献する

病院経営 MASTER

VOL.4. 5

特集

DPC II 群病院への取り組み

- 済生会宇都宮病院における DPC 病院 II 群指定への取り組み 3
吉田 良二 済生会宇都宮病院 病院長
上野 宏文 済生会宇都宮病院 経営戦略室
- DPC II 群病院への取り組み 8
宮崎 瑞穂 前橋赤十字病院 病院長
- 地域医療を推進した結果としての DPC II 群病院指定 11
秋山 雅彦 国立病院機構高崎総合医療センター 企画課経営企画室
- 聖路加国際病院の DPC II 群病院への取り組み 16
野村 牧人 聖路加国際病院 法人事務局
福井 次矢 聖路加国際病院 院長
- DPC 準備病院から II 群病院への取り組み 21
亀山 周二 NTT 東日本関東病院 院長
- 横浜市立市民病院の取り組み 26
小川 享 横浜市立市民病院 医事課医事企画係長
- BSC を活用した II 群病院への取り組み 30
高野 靖悟 神奈川県厚生農業協同組合連合会 相模原協同病院 病院長
- 対策は当院が担う診療機能の明確化と周知徹底 36
吉岡 二郎 日本赤十字社長野支部長野赤十字病院 院長
斎藤 隆史 日本赤十字社長野支部長野赤十字病院 副院長
- 神鋼記念病院の取り組み 40
千田 洋 社会医療法人神鋼記念会神鋼記念病院医事室医事企画グループ長
山本 正之 社会医療法人神鋼記念会 理事長
- 指定病院から II 群への道 45
小澤 修一 神戸赤十字病院 院長
- 病院群分類に対する当院の姿勢と取り組み 50
儘田 光和 日本赤十字社和歌山医療センター 小児科兼経営企画室
- 高度急性期病院・DPC II 群病院は地域医療再編の核づくり 55
日野 理彦 鳥取県立中央病院 院長
- 広島市立安佐市民病院の取り組み 58
多幾山 渉 地方独立行政法人広島市立病院機構広島市立安佐市民病院 院長
- 先端医療機器とシステムを利用する岩国医療センター新病院 62
竹内 仁司 国立病院機構岩国医療センター 院長

● 徳島県立中央病院のこれから.....	66
永井 雅巳 徳島県立中央病院 院長	
● DPC II 群病院への取り組み.....	70
高橋 毅 国立病院機構熊本医療センター 副院長	
● 特別寄稿	
DPC II 群の維持	73
望月 泉 岩手県立中央病院 院長	
● 病院経営 NAVI マレーシア保健省との意見交換と APHM 国際会議	80
渡部新太郎 多摩大学・介護ソリューション研究所副所長	
● Coffee Break	
医師と昆虫との世界	88
福永 肇 藤田保健衛生大学医療科学部 教授	
次号案内	95



マレーシア保健省との意見交換と APHM 国際会議 (International Healthcare Conference & Exhibition 2014) 参加と病院視察

多摩大学医療・介護ソリューション研究所副所長 渡部新太郎

●はじめに

2014年6月2日(月)~5日(木)まで、日本アジアクロス株式会社の招聘で、マレーシアヘルスケアトラベルカウンスル(MHTC、保健大臣及び首相直下の政府特別機関)のスポンサーを経てクアラルンプールへ飛んだ。

マレーシアは馬來西亜とも表記する。ここ3年間で毎年10名程日本とマレーシアの国際医療交流促進のため、医療機関(病院、医療機器関連等)、日本政府(厚生労働省、観光庁)及びメディアを招待してきている。

一行は、湘南鎌倉総合病院関係者と水巻中正国際医療福祉大学大学院教授・日本医学ジャーナリスト協会会長と私の総勢9名であった。

今回、湘南鎌倉総合病院がマレーシア政府より招聘された理由は、日本で唯一 Joint Commission international (JCI) と外国人患者受入れ医療機関認証制度 (JMIP・ジェイミップ) の認証を取得しており、かつ院内に国際医療支援室を設置するなどメディカルツーリズムを積極的に取り組んでいる病院ということである。マレーシア訪問では、マレーシア政府との関係構築、また現地の医療機関との関係構築による患者さんのやり取りを活性化することが目的とのこと。また、世界の人口の3割を超えるイスラムの患者さんの積極的な受入れを目指すため、ハラール食への対応も視野に入れており、現地施設での対応方法を学ぶことも目的に含まれていたとのことである。

案内していただいたのはマレーシア国際医療エクスポ委員であり、MHTC、マレーシア保健省の戦略パートナーの株式会社日本アジアクロス代表取締役 CEO の Keith Wong Wai Kit 氏である。

成田を発って約5時間30分余り、緑の大地が広がる飛行場に着陸した。

●MHTC 主催の交流会

到着後、市内のホテルで、MHTC トップの Mary Wong 氏からのご挨拶、プログラム概要の連絡、マレーシア医療業界のプレゼンなど、ハラール料理によるマレーシアの医療関係者との交流会が催された。

●APHM 国際会議に参加

2日目はホテルから APHM International Healthcare Conference & Exhibition 2014 に参加のため Sunway Pyramid Convention Centre (会場) へ移動、開会式に出席。会長の DATO 氏や保健省の DATUK 氏などトップ自らが力を入れているのが理解できた。フィリピンの JOYCE 氏の講演も改めて資料がほしいほどの興味深い内容であった。



写真1 クアラルンプールの朝焼け



写真2 マレーシア医療観光協会（MHTC）
主催の歓迎宴



写真3 APHM 総会

保健省の副大臣は講演終了後、展示会場のブースを回り出展者たち1人ひとりと対話をしていたのが印象的であった。

ランチには Mary Wong 氏や関係者も出席、展示会の自由閲覧、マレーシア病院との個別ミーティングセッションなど、有意義な交流となった。

マレーシアは国の全面バックアップのもと、構築された国際水準の外国人患者の受け入れ体制やハラル対応、世界医療観光市場での長期プロモーションを通じ、昨年約77万人の海外からの患者の訪問、前年の倍の成長を見せており、海外患者数に関しては東南アジアにおいてタイに次ぐ2位となっている。特に中東からの患者数の増加は140%を超えているとのことであった。

●医療交流を活発に行うマレーシア市内の4つの私立病院を見学

1. Sunway Medical Centre にて

1999年開院、350床の総合私立病院である。医師150人、看護師450人、レントゲン室、31床のICU CCU、12の手術室、16台の透析器械を備え、24時間オープンな救急外来と薬局、700台収容の駐車場完備。緊急外来は24時間診療。日本人スタッフが勤務していた。設備的には640列の最新鋭の東芝メディカル製CTなど、院内の表示がきれいで内視鏡のやさしい解説には漫画なども活用。

たくさんの専門医が外から病院の施設を使うというアメリカスタイルの病院で、災害などで患者の緊急度に応じた色分けの徹底したトリアージシステムが記憶に残っている。

医療交流の受け入れ態勢も国際患者センターのブースがあり、通訳スタッフも含め完璧な態勢で受け入れが用意されているようだ。うつ病かうつ病患者さんの回復室も完備されており（日本ではなかなかお目にかかれない）興味深かった。とにかく院内のさまざまな表示がアー



写真4 Sunway Medical Centre にて

トでかつ（小児で特に）楽しくわかりやすく実用的にレイアウトされていたのが印象的である。院内ショップもきれいで素晴らしい。ハラル料理のキッチンも広々として清潔であった。

2. Prince Court Hospital

主にがん、消化器、やけど、リハビリと労働安全を中心とした診療を行う、277床（すべて個室）の病院である。

緊急外来は24時間診療。専門医、麻酔科医は緊急時に対応し、当直システムをとっている。専門医は予約が必要、緊急外来は予約不要。

病院国際医療交流の患者さんの専門受け入れラウンジなどの施設や、コールセンターが完備されているようだ。オンコールの専門医一覧が掲示されていたが、こちらも外部からの専門医を招聘して、レベルを高めている。礼拝室をみせていただいたが、これは日本でイスラムの患者さんを受け入れるなら必須の部屋である。

乳がんのケアセンターの患者さん向けの掲示物は、わかりやすいイラストや写真で印象に残った。



写真 5 Pantai Hospital Kuala Lumpur にて

2013 年、海外からの患者さんはインドネシア、リビア、USA、など 25 万人にも及ぶ。

マレーシアにおけるヘルストラベルは、1998 年から 35 の登録された私立病院やメディカルセンターが担ってきた。日本アジアクロス株式会社とも提携している。

3. Tropicana Medical Centre

主に不妊治療を中心としている 180 床の病院である。

不妊治療の専門病院として、インターナショナルな実績をあげているという。宣伝方法を考えれば不妊で悩む日本人カップルも来られるのではないか。

ISO9001：2008 Provision of Hospital Care Services に対して 9001 を取得した。不妊治療の国際的な実績は宣伝の仕方によってはさらに海外から患者さんを呼べると思う。

病院の医療の質にも最大限力を入れていて、Baby Friendly Hospital Award、MSQH Accreditation、Readers Digestive Trusted Award、Joint Commission International (JCI) など、さまざまな認証の再認証や再々認証を受けている。

この病院の一人の女性医師は Embryologist として、ESHRE（ヨーロッパの不妊治療機関）から初めて認定されたアジア人の一人である。

まさに International なレベルの質を保ち、International Lounge、イスラム系の患者さん用の礼拝室の設置、院内のファーストフードの売店もハラール認証を受けるなど、海外からの医療交流の患者さんの受け入れも積極的に行っている。

日本において Keith 氏は Tropicana の公式パートナーとなっており、日本国内でも興味を持つ協力医療機関を広げようとしている。

4. Pantai Hospital Kuala Lumpur

主に乳がん、脊髄と心臓を中心とした診療を行う、331 床の病院である。



写真6 マレーシア保健省にて首脳陣と意見交換



写真7 海外からの患者さんの受け入れのための
INTERNATIONAL PATIENT CENTER
(Sunway Medical Centre にて)

緊急外来は24時間診療。日本人スタッフが勤務。同院内に日本語を解する内科医師 Dr. Lau（ドクター・ラウ）が私立医院 Clinic Medical Health Care を開設。

Pantai Hospital グループの中心施設。この病院もたくさんの専門医一覧表があって壮観である。病院に対する患者さんの信頼の醸成には効果的である。病院のポスターに The Art of My Healing Journey とい掲示があったがとても興味深い。

●マレーシアイスラム局（ジャキム）

マレーシアの病院は基本ムスリム患者への対応をしている。最近日本もハラル対応がトレン

ドとなっているようだが、ほとんどが飲食、食品や化粧品等に注目されているが、Keith 氏は日本の病院グループとジャキム本部で会談を行い、マレーシアの病院でのハラル対応の情報収集をしながら、日本の医療ハラル対応を進めている。

2,000 万人の海外旅行者を目指す日本はオリンピックまでにムスリム患者への対応が必要であろう。食べ物だけでなく、宗教上での掟、ムスリム患者のプライド、礼拝のニーズ等を既存医療サービスプロセスにいかにかつシームレスに融合できるかがカギである。また、その意識やプロセスを院内の関わる人たちに伝え、改善し、維持するのが大きな課題となっている。

●マレーシア保健省での首脳陣との会見

公立病院群は一般市民の診療を担当し、医療費も格安である。ただし、病室の設備の問題や待ち行列などを覚悟して受診しないとならない。公立病院群と私立病院群の医療者の技量の差は大きくないとのことである。

また、私立病院群は最新設備や先進医療を武器に現地の富裕層や海外からの駐在員や医療交流で来られた富裕な患者さんの診療を担って外貨を獲得するという役割をもっていることが、77 万人に及ぶアジア第 2 位という医療交流の実績につながる。

マレーシアは東南アジアの華僑・中国文化、南西アジアのインド文化とイスラム文化の接点の国である。そして 3 時間のフライトで主要なアジア各国に行くことができるため、岡山で菅波茂医師が主催するアジア医師連絡協議会：The Association of Medical Doctors of Asia「AMD」AMD が「世界平和パートナーシップ：Global Partnership for Sustainable Peace (GPSP)」構想を掲げて「GPSP 事務所 in クアラルンプールの開所準備を進めているのも日馬両国にとってもホットな話題である。

マレーシアの医師は主にイギリスでの卒業生が多く、グローバル医療の進歩をマレーシアへ持ち込むことにより、マレーシアの競争力を高めることになっている。また、海外に残り活躍される医師も少なくない。例えば、あるオーストラリアの病院は 9 割がマレーシアの医師である。そして、シンガポールの約半分の医師もマレーシアの医師であることもあまり知られていない。

マレーシアの公立および私立病院はそれぞれ異なる役割を背負っており、公立は社会福祉として国の健康を支えるため、料金は全国民を対象に自動的に政府が 9 割を負担するか無料かという形で提供している。また、医療の最先端や国際医療での競争を担当するのは私立病院であり、政府からいろいろな税金面の優遇を受けている。このようにマレーシアの医療は国民および外国人の患者の医療ニーズをバランスよく管理している。

●終わりに

2014 年 8 月には東京で「日本マレーシア国際医療交流カンファレンス」(www.mjihc.jp) も開催し、全国から医療関係者、報道関係者などを集めて盛大に開催して交流をはかられたこと

を付け加えておく。新聞記者から Keith 氏およびマレーシア医療観光協会の CEO である Dr. Mary をインタビューが行われた。

マレーシアから参加されたのは MHTC、マレーシア投資庁、マレーシア観光庁及びマレーシア貿易庁であり、在日代理大使が開会式で挨拶をされた。また、マレーシアの医療を紹介する他にメインイベントとして医療観光をアクティブに行われているマレーシアペナン州病院協会協力と Keith 氏が日本での医療サービス提供や日本医療国際化の協力 MOU の交わしと日本及びマレーシアの医療に関する熱いパネルディスカッションだった。このカンファレンスを通して、日本と海外の国際医療社会とのつながりが更に強化されることが目的の一つである。

謝辞

Keith 氏には準備段階を含め、全スケジュールに終始献身的なサポート、手配や気配りをいただき深謝する。また一緒に同行してお世話いただいた Max Wong 氏、Moo 氏にも深謝する。